



第49回全道造形教育研究大会

# オホーツク大会特集



## 北海道 造形教育 連盟報

No. 109 1999.12.10 発行

発行 北海道造形教育連盟

事務局 〒004-0845 札幌市清田区清田5条2丁目18-1

札幌市立清田南小学校 藤井正治

☎011-881-1975 FAX011-881-9759

## 猛暑の中、熱気あふれる

# 第49回全道造形教育研究大会オホーツク大会終了！

## 全道各地の会員及び参加者の皆さんに感謝！

第49回全道造形教育研究大会オホーツク大会実行委員会

事務局長 阿部 賢一  
(網走市立南小学校)

**今**年の夏は、異常とも言える暑さで、網走市においても何十年振りかの猛暑が続きました。

そうした中、7月27・28日の2日間、全道各地から大勢の皆様の参加をいただき、「第49回全道造形教育研究大会オホーツク大会」が無事終了することができました。

これ偏に造形教育に深く思いを寄せる造形教育連盟会員の皆様を初め一般参加下さいました皆様のお陰でありオホーツク造形教育連盟会員一同心より厚くお礼申し上げます。

思い起こせば4年前、第49回大会をお引受けしたものの、様々な困難点があり何とも言えぬ重い気持ちであったことが昨日の出来事のように思い出されます。

しかし、困難点をクリアするには大変苦慮しましたが「窮すれば通ず」でアイデアも浮かび、各教育関係機関のご支援、道造形教育連盟事務局のご指導・ご支援、更には、会場校の西小学校教職員の協力等により一つ一つ乗り越え320名もの参加者を得て無事大会を終了することができ感無量です。

**本**大会は、オホーツク造形教育連盟会員の絶対数が不足していることにより、会場校の西小学校の教職員の皆さんを初め、網走市教頭会員の全面的なお手伝い、更には授業を受け持つ会員所属の網走中央小学校有志の先生方の自主的なお手伝い、オホーツク造形教育連盟顧問の方々等々の協力がなければ成功は覚束ないものでした。改めて人間関係のつながりの大切さや温かい数々の善意の心に触れた大会でもありました。

一方、この大会を通じて、研究主題「自らの心をより豊かに拓く造形学習の在り方」並びにオホーツク大会主題であります

「オホーツク発 思・創・喜・感」

～一人ひとりが創造的な喜びを実感するために～

が少しは深められたのではないかと総括しているところでございます。具体的には、

### 思-個性

どの授業も一人ひとりの思いを大切にしたこと

### 創-創造

目の前の材料を見たり、自分の体験を通して、題材から思い浮かぶイメージをもとに、思いをふくらませ、工夫し制作、表現することを大切にしたこと

### 喜-喜び

制作、表現に没頭し充実感を味わうことや、協力して作品を完成したことを喜び合ったり、完成した作品を使って遊んだりする中で喜びを味わわせる取り組みをしたこと

### 感-共感

みんなで協力して1つの大きな作品を制作する中で交流や完成した喜びを共有すること、また、お互いに作品を発表する中で自分にはない良さを見つけたり批評をし合う中で互いに高め合う等豊かな人間関係を育む取り組みであったこと

**一**方、運営面については、行き届かない面が多々あり参加者の皆さんにご迷惑をおかけしたことを反省しています。

一つは大会の案内が各学校現場まで届いておらず、大変迷惑をおかけした地区があったこと。このことは、網走教育局のご厚意で教育局の輸送ルートを通じ、まずは各教育局へ、次に各市町村の教育委員会を経て各学校に届くという方法を取ったのですが、結果的にはどこかでパイプが詰まり学校現場まで届かないというところがあったのです。このことが一番の反省点です。

二つ目は、大会参加と宿泊の関係で、旅行業者に一括申込みをする取り組みでしたが、宿泊を業者に頼まない人の昼食希望の有無・交流会参加の有無等の把握が十分でなかったことが上げられます。(昼食も交流会も業者が取り扱ったので)(何とか昼食も交流会もしることができましたが……)

また、事前申し込みがなく当日参加いただいた顧問の先生がおられ、リボンの準備及び全体会での顧問席のテーブルに名札を急きょつけたり等慌てた一幕もありました。

**授**業では、子供の数より、参観の先生方の人数の方が多いたところが殆どでなかったかと思えます。

子供達は臆することなく（中学生はおとなしかった）普段と変わらぬ様子で活動できたと思えます。



全体会終了後の昼食時には、西小学校児童によるアトラクション「流水踊りニューバージョン」で参加者の皆さんに楽しんでいただきました。

午後の分科会は、「授業及び提言者による提言」に対する熱気溢れる話し合いが熱心に繰り広げられ、造形教育の今日的課題についての討議が深められました。



お寄せいただいた感想文の一部を紹介します。

「分科会では、提言者の方の造形遊びの内容、導入のしかた、進め方についてのお話では、『あっ！こういうやり方もあるんだ』、また、いろんな素材、造形について自分としては、発見したり、参考になる部分が多々あってとても良かったと思えます」

「目の前にいる子どもたちの現状（生活、思考）を十分に把握し、その上に立った図工の教育計画（題材、指導計画、支援）を企画されていることに敬服しました。

第3分科会での授業者、提言者の情報力（教育に関する現代の課題企画力）に頭が下がります。幅広い豊かな教育観を持った3人の先生、ありがとうございます。もっと多くの時間で3人の先生の日常実践をお聞きしたく思いました。」

**分**科会の熱い討議と共に気温も上がり、外はムツとする暑さの中、「歓迎交流会」となった。

しかし、セントラルホテルはクーラーが効き快適。

須貝実行委員長挨拶の中、オホーツク造形教育連盟差し入れの旬の味サロマ湖産「北海シマエビ」が登場。「ワー」という歓声の中、瞬く間にシマエビは参加者の胃袋の中に入り、交流会が盛り上がり進化する。

交流会が最高潮に達したのは、恒例の「各地区紹介」であった。

中でもおおとりは、札幌地区の紹介である。若手フレフレ三兄弟のエールを皮切りに、見ものは何と言っても顧問の先生方による『造形教育餅つき』、『腹話術』、『鼻笛』等のかくし芸の披露である。ある顧問の先生はそと「交流会に参加した皆はかくし芸を期待しているのだろうな！そう思うと参加申込みしていなかったけれどもやって来たよ！」と急に参加したわけを教えてくださいました。

二日目の「実技研修」には、この日35度8分と全道一番の暑さとなった中、凡そ100名の参加者が「北方民族博物館」と「てんとらんど」の2会場で汗だくになりながら、「ガラス玉」「サミのひも」「ウイлтаのやじろべえ」「ナーナイのペンスタンド」「ウイлтаの切り紙紋様」「イヌイットのうなり板」の実技に、3種類4種類と挑戦し作品を完成させておりました。

**閉**会式では、オホーツクから次年度開催地の「渡島」へ道造形教育連盟旗が手渡され一切が終了。

今後、実行委員会各部署で具体的な反省評価を行います。事務局として本大会の成果をまとめてみました。

- (1) 地域にある「社会教育施設」及び「私立幼稚園」との連携による研究大会ができたこと。
- (2) 教育の今日的課題である「あらゆる場で自分の考えを持つことや自己決定の機会を設けること」「人材活用」「教育機器の活用」等に正対した授業実践であったこと。
- (3) オホーツク造形教育連盟若手会員の活躍。
  - ①各授業者、分科会記録者として
  - ②シンボルマークの作成
  - ③大会速報の発行（パソコン、デジカメ駆使）
  - ④大会看板等作成
- (4) 新会員の加入。
- (5) オホーツク造形教育連盟会員同士の交流の深まりとまとめ

最後に、改めて本大会でご協力、ご支援いただきました関係機関の皆様へ心から厚く感謝申し上げますと共に次年度の函館大会の成功を心よりお祈り申し上げます。

## オホーツク大会に参加して

札幌市立稲穂中学校 伊東 ゆき

造形教育の研究とは一体どんなものだろうか？

1年間教師生活を通して積もった疑問を解く鍵を見つけることが出来るかもしれない…。そんな気持ちで今回の大会に参加しました。

1日目の研究授業は、多くの授業を見て回ろうと、次から次へと授業会場に足を運びました。どの授業でも子供たちの取り組みの熱心さに強く心を惹かれました。

中でも、里見貴史先生の『朝の道、帰りの道』は、教室を去りがたく、最後の残り時間いっぱい見ていることになりました。

一生懸命に制作した作品を発表する場面だったのですが、少しはにかみながらも作品に満足し、誇りにしている子供たちの様子を見て、その裏にある指導者の支援の力強さをひしひしと感じました。

中学校の授業を研究するつもりで大会に参加させていただいたのですが、幼・小・中という校種の授業を見ることで、造形教育の目指すものが伝わってきたように思います。

何を教えてよいか？美術科の基礎基本は？

そんな疑問の答えとなったのは子供たちの生き生きとした表情でした。そこに、感性の確かに育つ姿を見ることができたのです。

今までの自分を振り返り、また新しい意欲に胸が満たされた今回の大会参加でした。

## 第49回 全道造形教育研究大会 オホーツク大会



# 会員から寄せられた声

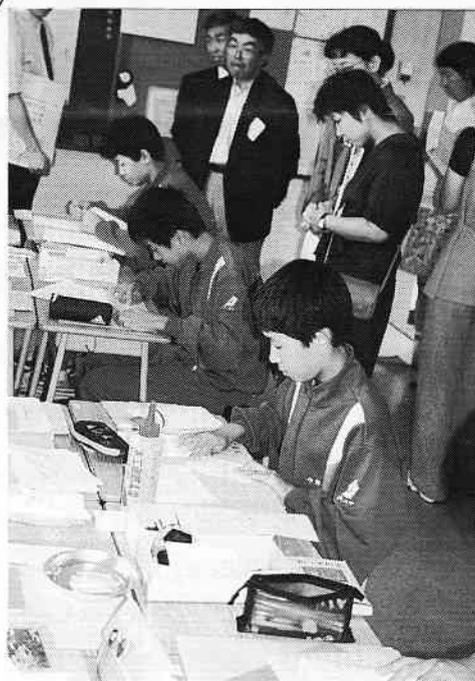
### 貴重な情報を得る機会に

手塩都豊富町立庄内中学校 瀬戸 愛

小・中とも同じ会場で行われたオホーツク大会でしたが、自分は小中併置校で図工も教えていたので、どちらにも参加できて助かりました。

また、こういう大会は、大きな学校の生徒さんで、やる事が多いと思うのですが、小規模の学校の子供たちの雰囲気なども伝わってきて、今後のためになる事をたくさん学びました。

僻地にいるとどうしても情報不足になってしまうので、この様な機会は大変貴重でした。



## 幼稚園の造形あそびを考える

網走市 桂幼稚園 垂水 サカエ

公開保育『新聞あそび』を参観しました。

子供たちが「新聞」という素材を通して、友達同士・保育者とのびのび遊んでいるのがよく分かりました。

新聞あそびという造形活動から、運動あそび（ちぎったり、パンチしたり、新聞上ですべってみたり…）へとつながっている場面が見られ、保育が一連のつながりを持っているんだなということを感じました。

新聞あそびのときに、保育者から子供たちの動きのきっかけとなる言葉かけ（具体的な）があってもよかったのではないかと思います。

今後の造形あそびがどのように展開されていくのか楽しみです。

（※オホーツク大会速報紙 第7号より抜粋）



## 猛暑に負けない会員の熱気が



函館から十時間、初めての都市網走に胸躍らせながら、広大な原野を通過しました。さ

わやかな晴天の中、色とりどりの花が咲きほこり、幼稚園から中学校までの多くの先生方が集まり、熱意と熱気が漂った会場でした。

所用のため1日のみの参加でしたが、子供一人一人の本来持っている感性、個性を大切に育てていくため、身近な題材に視点を合わせた教材が多かったようです。

## オホーツク大会に参加して

函館市立港小学校 高橋 喜子

熱心に子供たちに指導なさっている先生方、子供たちの様子を見て、図工・美術教育

への想いを再確認させていただきました。

身近な題材での授業は、地元に戻っても実践に生かせる面があり、大変勉強になりました。点在する会員の方々での大会の運営ということで、オホーツクの先生方のご苦勞と熱意に感謝申し上げたいと思います。ありがとうございました。

## 北色みつけた 一見えないものが見えてくる—

—第49回オホーツク大会を終えて—

北海道造形教育連盟 研究部長

阿部 宏行 (札幌市立中央小学校)

### 1. オホーツクの北色発見—黒く光る石

授業当日の朝、黒く光る石を会場校の網走西小学校の校庭の片隅で見付けた。「ころころアート」(4年生)という絵遊びの授業に必要なころころ転がるものを探しに校庭に出たのである。この授業は転がるものに絵の具を付けて画用紙の上を自由に転がすのである。

そこで見付けた黒く光った石は、黒曜石の欠片であった。

この授業は本部の者が授業者として大会の地区の子どもたちといっしょに活動する試みである。連盟の大会としては初めてのことといえる。

この試みが実現したのは、前年度のプレ大会(女満別の大成小)に実技研修に参加させていただいた積み重ねがあったからである。そこでオホーツクの先生方の温かさに魅せられて今回の授業になったのである。

授業の次の日、道立北方民族博物館で太古の昔に鎌や槍の先として駆け巡っていた黒曜石を見付けることになった。

この石を見ながら、様々な思いが色となって現れた。黒い石、…石炭、石炭が燃える炎、石炭を友だちと教室まで運んだ学校の長い木の廊下、窓の外の吹雪、雪景色の中に晴れ上がった青空…、どれも「記憶」という北色の扉が開かれる。

この授業でも、子どもの「記憶」に北色が刻み込まれた。

### 2. 見えないものが見えてくる

授業の導入に、子どもとゲームをした。持参した鞆から、見えないものを取り出して、子どもにその様子から、何を取り出したのかを当ててもらうゲームである。

「うさぎ」「つらら」など、見えないものが見えてくるのである。

この日、初めて出会う子どもとのまなざし合いから生まれる〈いま〉を〈ここ〉で共有するイメージなのである。「見えないものが見えてくる」のである。

絵の具をつけた球は、画用紙の上を自由に動き回る。お気に入りの色の線が画用紙に広がる。大人には見えない世界が、子どもには見える。「宇宙」「秋」など、ひとりひとりの思いが教室を包み込む。

造形作家の日比野克彦が子どもたちと一緒に絵を描き作品を鑑賞したときのことを次のように書いている。「その絵は美術館でガラス越しに見る絵よりも、自分たちに伝わってくるものがある。知らない人が描いた絵より、自分たちが描いたというリアルな感触がある。一人で描いた絵より、大勢で描いたほうが驚き・発見がある。誰だって絵が描けるし、誰だって絵を楽しめる。それらしく描く技術よりも喜んで描く気持ちが大切であり、絵に失敗はなく、不正確もない。それが自分の作品であり、自分の世界である。」(引用P72「8万文字の絵—表現することについて」PHP新書1997年)

この言葉に私たちのめざす全てがある。この全てが網走にあった。

### 3. オホーツクを身体で感じて

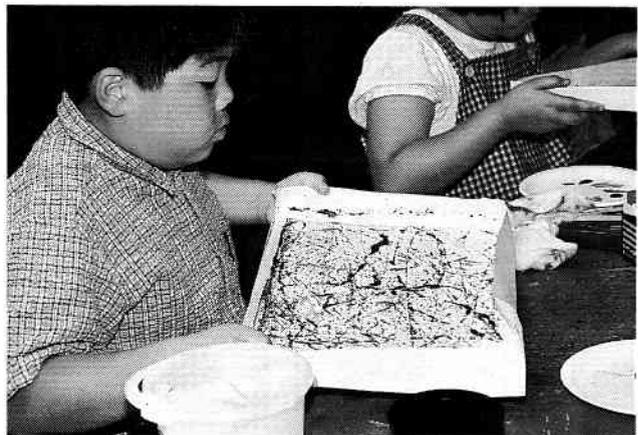
この大会を企画運営してきたオホーツクの先生方の熱意と温かさに触れることができた。交流会にわざわざ参会者のために「北海シマエビ」を産地から運び込んでくださったり、実技研修での懇切丁寧な指導など、幾つものやさしさに出会うことができた大会だった。

身体で感じとれる全ての感覚を呼び覚ましてオホーツクを「記憶」することができた。

大会の2日目は、この夏一番という暑さであった。灼熱の太陽に照らされたアスファルトから発せられる陽炎に揺らぐ向こうに網走の町が見えた。

澄み切った青空の中を飛行機は、一文字の白いすじを描きながら西に向かった。

来年の函館大会では、どんな北色が発見できるだろうか。やはり函館はグレイ(GLAY)だろうか。



(お気に入りの色を転がして自分の世界をつくる子ども)

NEXT...



# 札幌連高校部会で 初の授業研

題材名 「CDジャケットの制作」

生徒 札幌市立平岸高等学校 1年5組  
指導者 鉢 呂 彰 敏

9月24日、札幌市造形教育連盟高校部会の授業研究会が開催されました。これは、札幌では初めてのことであり、北海道造形教育連盟の長い歴史の中でも画期的な取り組みと言えるものです。全道の会員に紹介すべく札幌市立清田高校の澤田範明先生に報告の原稿をお願いしました。



沢山の方々に参加して頂き感謝申し上げます。授業研は我々高校部会にとって初めてのことで、とても勉強させて頂きました。

さて、本時は授業計画の11時間中の8時間目で、着彩の活動場面であった。前時の学習の確認と絵の具以外の素材を使う生徒への制作工程についてのアドバイスを含めた制作中心の授業であった。生徒は、それぞれ自分の作品の中で、工夫する点や工程を確認し、完成をイメージしながら制作していった。

今回は初めての高校の授業研究会ということもあり、全出席者32名中、小・中学校の先生は23名も参加して下さいました。質問や意見は高校の授業内容についてのもの、コ



ンピューターの使用についてのもの、中でも小・中・高の指導の流れや発達段階に注目した質問が多かった。

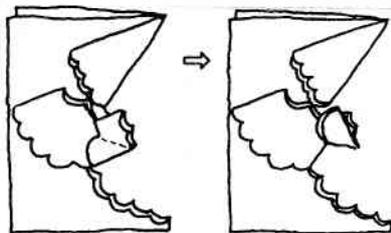
小学校の図工での「造形遊び」における現代性の具体的な流れが感じられないという声や、小・中・高の連携とは何をどうしたら良いのかという投げかけもあり、これからの共通した課題が浮かび上がった。

今後、小・中・高の先生方の研究会などによる交流の深まりと連携が一層求められると思われる。今回は、その第一歩として意義ある研究会であったと思います。

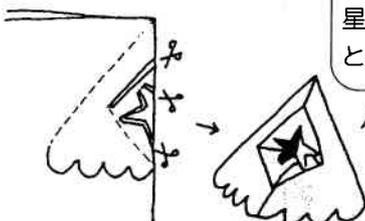
## サンタクローズ

連盟顧問の伊藤 恵先生からのクリスマスプレゼントです。ぜひ、お試しください。

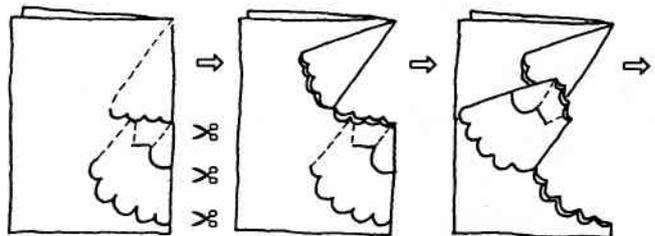
②



次に鼻を折る。

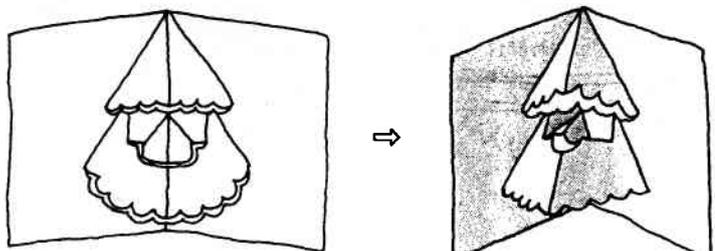


①



二つ折りの紙の折り目から3カ所に切り込みを入れ、帽子とヒゲを先に折る。(折るときは必ず裏と表へ折る)

③



一旦広げて

あとは開いて閉じて

お願い

連盟創立50周年を前に、連盟の歩みを記録として残すため「10年ごとの周年記念誌」「各全道大会の研究紀要」「連盟報」のバックナンバーを揃えたいと考えています。各地区、個人で予備をお持ちの場合、ご寄贈いただけましたら幸いです。(詳しくは別紙)

# 地区サークル紹介

札幌

109号  
石狩

空知

留萌

後志

檜山

函館

渡島

胆振

上川

108号  
旭川

室蘭

苫小牧

十勝

帯広

108号  
釧路

オホーツク

108号  
根室

18

前号から、シリーズで地区サークルを紹介しています。2001年大会は全道の力で成功させましょう！

## ●石狩造形教育連盟

「青森の先生のすぐれた実践に学んで」

石狩造形教育連盟では、毎年、会員の実践に役立つような実技研修会や講演会を企画、実施しているが、昨年度は、一般の先生方を対象に版画指導の実技研修会を開いた。ふだんの生活の中で、感受性豊かな子どもを育てるにはどうしたらよいか、入門期の版画指導の進め方について、彫りや刷りの実技指導を交えて熱心に学んだ。講師には、青森市浜田小学校で、版画を通して心豊かな子どもを育てる優れた実践に取り組んでいる白戸千雅（しらとちが）先生をお招きした。この日は、週休土曜日で、学校が休みになったこと、講師の魅力ある実践内容にひかれたこと、また、学校で、子どもたちにより版画を作らせたいという思いが強かったこと、などがプラスしたのか、70名近い先生方が出席し、和気あいあいとした雰囲気での研修が進められた。

ものを見て、だまって通りすぎない、ちょっとしたことにも目を止め、心を寄せることができる“心の目”を掘りおこすなど、貴重な話がたくさんあり、参加した先生方は、じっくり聞き入っていた。実技では、青森市の子どもたちが作った版で、実際に刷りを体験し、作品の素晴らしさに目をみはっていた。



△恵庭市立和光小学校 3年 箭原佑香「えさをあげるよ」(板紙凸版)

今年度は、昨年開館したばかりの総合文化施設“花ホール”を使い、11月に、石狩の子どもの作品、約700点を展示する「石狩管内小中学生教育美術展」を開催する。また、1月には、校内装飾のノウハウを、一般の先生方のニーズに応じて研修する実技研修会を予定しており、今後も広く造形活動の楽しさを知ってもらう活動に積極的に取り組んでいきたいと考えている。

〈石狩造形教育連盟委員長

恵庭市立和光小学校 関 建治〉

## — あ と が き —

今号は夏の全道大会の様子を中心に編集しました。オホーツクのさわやかな夏の一日に全道の会員の方々と顔を合わせることができ、あらためて造形教育を大切にしている仲間たちの力強さを感じました。昨年の留萌大会、今年のオホーツク大会、そして、来年の函館大会とプレ大会の成果を、来たる「2001年全国大会～北海道大会」につなげましょう。

連盟広報部では、連盟報を全道の会員サークルを結ぶ大事な“場”として位置づけ、広く情報をいただきたいと思っています。各地区の広報紙等を送っていただけたらありがたいです。FAXでもOKです。(事務局へ) 広報部/小泉 誠, 東 尚典, 山室ゆかり, 太田寿栄子, 富田賢司, 中山龍男, 加藤正幸, 土肥宏充, 中居正光